様式２

番号 ＼ 観点	発行者の番号・略称	使用学年	教科書の記号・番号	教科書名
	4・大日本	第１学年 第２学年 第３学年	数学・729 数学・829 数学・929	新版 数学の世界１ 新版 数学の世界２ 新版 数学の世界３
取扱内容 （学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等）	○　数と式 第1学年では、 作品やマグネットの数量を求める等式にいろいろな値を代入して両辺を比べる活動、第2学年では、生き物観察エコツアーで人数の違う2種類の班の組合せを求める方程式を立てて解を調べる活動、第3学年では、周の長さと面積が決まっている長方形の縦と横の長さを求めるための方程式の解き方を考える活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　図形 第１学年では、合同な図形を敷き詰めて描かれた模様から移動の方法を考える活動、第２学年では、リボンを重ねてできる四角形から平行四辺形になるための条件を考える活動、第３学年では、直接には測定することが困難な校舎の高さを図形の性質を利用し求める活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　関数 第１学年では、一定の速さで走る電車が走った時間と進んだ道のりなどの伴って変わる２つの量の関係を調べる活動、第２学年では、長方形の紙を折ったときに重なった部分の面積の変化をグラフ等に表し説明する活動、第３学年では、正方形の１辺の長さと面積の関係を考える活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　資料の活用 第１学年では、異なる学校の通学時間に関する調査資料から、代表値などに着目して資料の傾向を読み取る活動、第２学年では、サッカーのコイントスにおけるコインをびんのふたに変えることの是非を考える活動、第３学年では、ある中学校のハンドボール投げの記録から標本平均を調べる活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。 ○　知識・技能の習得、活用、探究への対応 第１学年では、文字を使って数量の関係を等式や不等式で表す活動、第２学年では、連立方程式を使って求める数量を考える活動、第３学年では、標本調査から母集団を推定したりヒストグラムを使って生徒の握力の傾向を調べたりする活動など、補充的な学習活動が取り上げられている。			
内容の構成・排列、分量等	○　内容の構成・排列 第１学年では、いろいろな数量について文字を使った式で表す活動の後に、数量の関係を等号や不等号を使った等式や不等式で表す活動を取り扱い、第２学年では、２つの三角形が合同になるための条件を考える活動の後に、二等辺三角形の底角の性質を考える活動を取り扱い、第３学年では、$y=ax^2$の関係で表される２つの数量の関係を式に表す活動の後に、２つの数量の関係を式とグラフを使って考える活動を取り扱うなど、系統的、発展的に学習できるよう工夫されている。 ○　内容の分量 第１学年～「数と式」は 112 ページ、「図形」は 78 ページ、「関数」は 38 ページ、「資料の活用」は 24 ページであり、総ページ数は 311 ページで、前回より約 4%減となっている。 第２学年～「数と式」は 56 ページ、「図形」は 74 ページ、「関数」は 38 ページ、「資料の活用」は 24 ページであり、総ページ数は 247 ページで、前回より約 6%減となっている。 第３学年～ 「数と式」は 90 ページ、「図形」は 88 ページ、「関数」は 34 ページ、「資料の活用」は 16 ページであり、総ページ数は 303 ページで、前回より約 6%減となっている。			
使用上の配慮等	○　本文中に、数学と日常生活との関連を考える「社会にリンク」などを設ける（全学年）とともに、巻末に、授業で切り取って調べたり組み立てたりして活用できるような作業用の厚紙を設ける（全学年）など、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○　本文中に、学習の定着状況に合わせて選択できる「プラス・ワン」などを設けたり（全学年）、巻末に、１年間の学習内容を振り返ることができる「まとめの問題」を設けたり（全学年）するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○　巻頭や巻末に、教科書の使い方を示した「数学の世界へようこそ」などを設けたり（全学年）、各単元において、学習を計画的に進められるように見開き２ページで１単位時間分の内容を示したり（全学年）するなど、使用上の便宜が図られている。			
その他	○　北海道と関連のある教材は、「旭川の最低気温」など、７箇所取り上げられている。 ○　全ての生徒が学習しやすいようユニバーサルフォントを使用したり、読みやすい位置で改行したりする工夫がなされている。 ○　点字のしくみの学習で、社会生活を営む上で欠かせない弱者に対する配慮や人権、環境問題などに対する意識を高める配慮がなされている。			